

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

|       |  |                               |                                      |
|-------|--|-------------------------------|--------------------------------------|
| 課題番号  | 20H05633   | 研究期間                          | 令和2（2020）年度<br>～令和6（2024）年度          |
| 研究課題名 | 包括的な金融・財政政策のリスク<br>マネジメント：金融危機から国際<br>関係・災害リスクまで | 研究代表者<br>（所属・職）<br>（令和4年3月現在） | 上東 貴志<br>（神戸大学・計算社会科学研究所<br>センター・教授） |

【令和4（2022）年度 中間評価結果】

| 評価  | 評価基準 |   |
|---|------|---|
|   | A+   | 想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる                          |
| ○   | A    | 順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる                           |
|   | A-   | 概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
|   | B    | 研究が遅れており、今後一層の努力が必要である                                |
|   | C    | 研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である              |
| <p>（研究の概要）</p> <p>本研究は、日本が抱える財政問題や国際関係等におけるトレンドから大きく逸脱するリスクを事前に推定して、適切に対応できる包括的な金融・財政政策を導出する手法を確立するものである。</p>   |      |   |
| <p>（意見等）</p> <p>研究開始から2年というタイムスパンを考慮すると、数多くの論文や著書の執筆、学会報告が行われており、通常、論文刊行までに相当の時間を要する社会科学系の研究プロジェクトとしては十分な研究成果を上げていると言える。21の個別プロジェクトにおいても順調に研究成果が上がりつつある。また、新型コロナウイルス感染症リスクやロシアによるウクライナ侵攻など、新しく世界経済が直面する政治・軍事等にわたる国際関係リスクも研究の射程に加えるなど意欲的であり高く評価できる。さらに、AIによる将来予測のモデル化や景気ウォッチャー調査による機械学習・期待形成メカニズムの分析などのユニークなテーマにも着手しており、今後の研究の進展が強く期待できる。ただし、本研究のコアとなる包括的な金融・財政政策のリスクマネジメントに関する研究については今後の一層の取組が望まれる。</p> |      |   |